

今回、塩野谷先生の講演を聞き、子どもたちにとっての遊びの大切さが分かりました。講演の始めと終わりにも言っておられたように、遊びは、子どもの将来にもつながると感じました。私が心に残ったことは、遊びには癒す効果もあるということです。友だちとけんかをして落ちこんでいるときに石に角虫をあそぶことで心落ちつくということに驚きました。また、何かを崩してしまったり、いたずらをしてみたりすることができるとは、保護者や保育者など、その子にとって「頼れる人の存在」があるからだというお話を心に残りました。いざとなったとき、味方になってくれる存在が近くにいることで、子どもたちは自分のやりたいことなど、様々なことに挑戦できるのだと分かり、私も子どもたちにとっての頼れる人でありたいと思いました。遊びは子どもたちの生活そのものでありと理解し、今後工夫したあそびを取り入れたら、子どもたちに関わったりしていきたいと感じました。



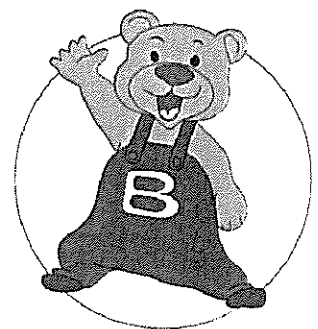
今日の講演会の中で一つ気になったことがあります。

塩野谷先生のお話しの中に虫の命から命の尊さを子どもたちは学んでいくというお話しがありました。

とても興味深い話しでしたが、私は子どもたちがカエルやバッタの死体を見せに来る姿があると、すぐに夏ごなしに「かゆいところから埋めてあげ」と声をかけることしか出来ていません。たぬので、こういった時にはどのトクも子どもたちに話しをすれば、虫の命の尊さを伝えてくれるのか考えさせられることとなりました。今はまだ自分の中でその答えは見つかっていませんが、今後は私自身も命の尊さを意識しながら保育に臨んでいこうと思いをしました。

又、安全基地の大切さも学びました。

子どもたちは、この先生がいるから元気で、おしゃべりして遊ぶといったように、我々保育者一人ひとりが安全基地となれるようにこれからもがんばっていきたいと思いをしました。今日は、講演会に参加させていただきありがとうございました。



「子どもの発達と環境」～乳幼児の遊びの大切さ～

今日の講演を聴講して一番強く感じたことは、わたしは子どもたちの気持ちに全然共感できていなかったということです。玩具の取り合いが原因で泣いたり叫んだりしている子どもたちを見ない日はありません。毎日のことなので慣れてしまい、先に使っていた子どもに返さないとか、勝手に取って行った方が悪い、ということなどで終わっていました。でも、取った子どもにとっても、取られた子どもにとってもそれは大切なものであるということを学び、大切なものを一生懸命守ろうとする貴重な姿が毎日溢れているということに気づきました。そんな大事な子どもの姿、成長を見逃すことがないように、今後は表情や言葉から気持ちを感じと、ていきたいと思えます。また、言葉の理解は最後は実感ということが印象的でした。わたしたちはその実感を多くの子どもたちに提供できる立場にあります。そう考えると、とても責任のある職だと思えます。でも、だからこそやりがいを感じるのではないかと考えました。今日の講演を聴講し、改めて保育教諭という仕事に就いてよかったです。この気持ちを忘れずに明日からまた頑張りたいと思いました。

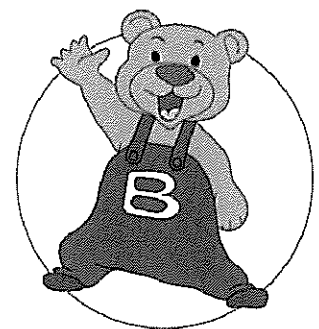


この度の塩野谷先生のお話の中で、特に心に残った言葉は、「子どもから大人に切り換わるのではない。子どもが土台となって、子どもの上に大人が積み重なる。」です。だからこそ 私たち保育者は土台となる子ども達に責任を持って関わっていかねばならないと思いました。毎日の保育をするにあたり、「今日は何をしよう?」「どうしたら体をいっぱい動かせて、子ども達が満足するだろう?」と考えていましたが、これからは、それらに加えて「子ども達が、必死で遊ぶおもちゃは何だろう?」「楽しい気持ちを自分も共感出来ていてはどうか?」と考える、振り返っていかねばならないと思いました。

「子どもの10年、20年、何十年先に責任を持つこと」という言葉では、改めて、私達は(私の数年の関わりだが、その子の人生を大きく左右する大切な役割を任されているのだ)ということ強く思いました。

また、「3匹のセギのガラガラドン」の絵本についての先生の解説をお聞きして、絵本の奥深さを知り、自分も作品に込められた作者の意図やメッセージをしっかりと受け取められるようにしたいと思いました。そして、子ども達が何度も何度も読んで欲しいと思える本を選ぶようにしたいと思いました。

「今が充実すると次のステージが現れる。」その今の充実をしっかりと与えられる保育が出来るとよう努めていきたいです。



## 子育て支援の講演会

「子どもの発達と環境」～乳幼児のあそびの大切さ～

講師：塩野谷 奈先生

今日の講演会はとても日々の保育に役立つと感じました。

子どもにとって頼れる人の存在が大切なのだと言われて感じました。

困ったら頼る人がいるから何事にもチャレンジが出来る。保育園では

保育者が、子どもたちの頼りになる存在で、子どもを主体的

に日々の保育をしていこうと思いました。

子どもたちはあそびを真剣になってあそんでいるため、言葉がこ

じやまをされると怒ったりして、あそびの中で人間関係を作る。

積み重ねあそびの中にも、≧満足感や達成感・充実感があり、

みんなで力を合わせて作ることのすばらしさを学ぶ。

虫とふれたいさん角虫、直接的な経験を命の大切さを学ぶ。

散歩や園庭であそぶときなど虫探しをして角虫と、子ども

たちと一緒に虫についてふれたいと学べたらいいと思いました。

〇才児では保育者が選んで絵本を言っかけているが、子どもに

絵本を選ばせることも大切なのだと感じました。

生後8ヶ月から絵本に興味を持つため、リズム絵本や

手あそび、おらべうたなど、どんどん日々の保育でしていきたい

と思いました。また、月齢合致の空間

や時間を分けることが大切だと

感じました。



今回、塩野谷先生の講演をお聞きて、いろいろな気持  
があったり、勉強になることがありました。始めに“アレヤウ!!!”  
という例を上げて話していただいたりお話を聞いて、自分は普段、どう  
だろう?と自分の保育を見通しました。言葉を使い直したりお話しも、  
その子と気持ちを通じるこれが大切、そのための適切な体験を大事にという  
言葉がとてモバに残りました。普段の保育の中で、まず共感をしていき、  
子どもが受け入れてもらった安心感を感じ、いろいろな活動への意欲  
につなげていけるような関わりを大切にしていきたいと思えます。  
本当に子ども達は遊びを通して得るものがたくさんあり、遊び  
を大切にしていかなければいけないと改めて感じました。そして絵本を  
取り入れたり、間接体験を大切にしながら、直接体験を支え  
豊かにするかにつなげたり、保育士として子ども達の遊びが  
充実していくために、環境を用意したり、工夫していくようにしていきたい  
と感じました。自分の保育をもう一度見直し、子どもが  
轻轻松松と伸び伸びと遊べるような保育がしたい保育士を  
目指して頑張りたいなと思えます。



## 子育てひろば21講演会感想

この度、「子どもの発達と環境～乳幼児の遊びの大切さ～」と題し、鳥取大学地域学部教授(兼)附属幼稚園長の塩野谷希先生の講演を聴かせていただきました。

先生が冒頭に話されていた「子どもは大人を乗り越える権利がある」という言葉が強く心に残った。子どもの成長にしっかりと大人が責任を持つことが大切ということを事例をあげながらわかりやすく話してください。今後の保育の参考となった。大人のさまざまな言葉の選択や絵本の事、給食時の事等、子どもの芽生えを妨げる行為から大人を乗り越えられない子育てになってしまうのではないかと。明日の保育からすぐにでも見直しを心がけていきたい。また、様々な絵本を基に非認知能力を身につけ、小学校へ就学できる生活を幼児期にしっかり送らせていきたい。

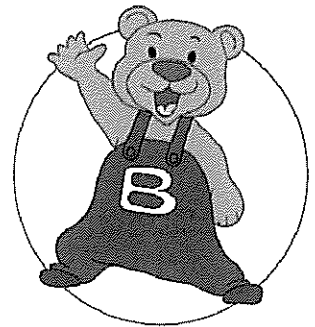


## 子育てひろば21講演会を聞いて

一番印象に残った言葉は「今、〇オ見を見ていても、先の何十年(後)の事を考えなくてはならない」という言葉です。

今、〇オ見を保育していますがこの子達の何十年後なんて考えた事もありませんでした。

講演を聞く数日前に、主人と、〇オ見の子で入ったら、家で家族というより保育園にいる時間の方が長いよなって話をしていた。その時は子供がかわいそうだなって思いで話をしていたが、講演を聞いた時、ハッと思いました。もちろん家族という方がいいに決っていますが、保育園にいる時間、私達がどれだけの事を子供達にしてあげられるか、本当に責任をもって保育にあたらな、といけな、と新たためて思い知らされました。そして大変な仕事をしているのだと考えさせられました。





## 塩野谷 齊先生講演会感想

大変解りやすく良かったです。

冒頭、気持ちに通じる事が大切。教育は大切な事だが、優しさ暖かさ忘れてはいけな事を2時間の講演を通して感じました。

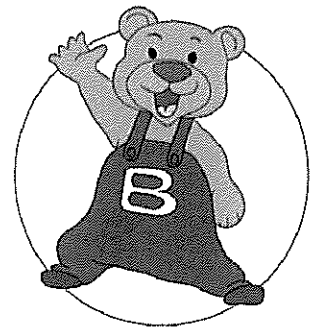
話したくなる様にするには、しっかり聞いてくれると言う安心感や信頼関係がないといけな事とお教えて頂きました。

しっかり遊ぶには、遊んで良い状況と安心して遊べる環境が整っていないといけな事を学びました。

未滿時の絵本について「ミビコのやまのからがらとん」は読んだ事がなかったのですが、購入し読んでみました。

絵は確かに恐い気がしました。しかし読んでみる先生がお話しされた様な深い読み取りにはなりませんでしたが、書かれている奥に書き手の想いがあふれているのでよかったです。

今日だけが良いのではなく10年、50年先を想像し、今何とすべきかを皆で考え保育の子事を学びせて頂きました。



『塩野谷先生の講演会を聞いて』

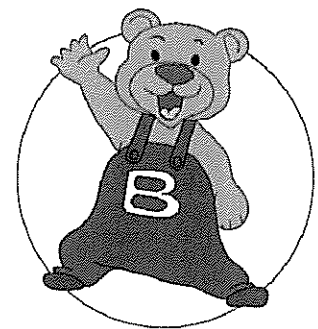
今回、『子どもの発達と環境 -乳幼児の遊びの大切さ-』の講演を聞かせていただき、子どもにとって遊びは、本当に大切なことだと思いました。大人にとっての遊びと  
例えば、仕事の合間に行う気晴らしと言われ、まさにそうだな  
と思い、子どもにとっての遊びとは、大人にとっての仕事  
と同じで、遊ぶことが仕事。たくさんの方たちと関わり  
ながら遊ぶことで、様々なことを学んでいくんだと  
いうことを改めて思いました。

遊びの中には癒しの効果があり、感情のコントロールも  
学習しているということを知り、あまり考えたことがなかった  
ので、これから意識していきたいなと思いました。

小学校以上になると間接経験が増えていくと話し  
があったように、小学校に行くまでの保育園などで過ごす  
時間でたくさん直接経験ができるようにしていかな  
いといけないなと思いました。

これまでの保育を振り返ったり、これからの  
保育にいかせる講演会でした。

ありがとうございました。



この講演を聞かせて頂き、最初に私達の責任は、その場の責任ではない！10年後、もしくは100年後までの責任がある仕事という事日々頭に入れておかないといけない、と思いました。

「子どもの遊び」は「大人の仕事」と同じなんだ。それだけ本気、真剣、切実という事。だから私達保育者もただ「遊び」ととらえてはいけません。しっかりと向き合っていく、としっかりと痛感しました。非認知能力の重要性を教えてください。ベアーズの保育理念とリンクしているので、前回の講演会の話としっかりと頭に入れて日々保育をしていきたい、と思いました。

続けて素晴らしい講演会に参加できて良かったです。

ありがとうございました。

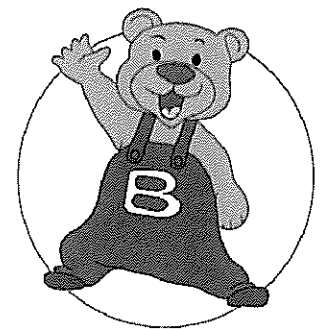


H28. 11. 12 (土)

子どもの発達と環境 ～乳幼児の遊びの大切さ～

乳幼児期に充実した遊びを経験した子ども達は  
その後の学童期でも遊びや、学びが安定  
しているように感じました。

遊べる環境の大切さ、環境の一部として  
保育士と子どもの関わり方、10～20年後の先を  
見据えた支援をする責任ある重責で凄いいこと  
と思い、とても勉強になる講演会でした。  
ありがとうございました。



子育て広場 2 1 講演会

テーマ「子どもの発達と環境」 講師 「塩野谷 斉 先生」

私たちベアーズが日々の保育で目指している、意欲、自主性、主体性、非認知能力の大切さ等をわかりやすく丁寧にお話頂きました。先生の一言、一言が心にしみ、納得することができ、裏打ちして頂いたなとありがたく自分の中で整理ができたように思います。

遊びが大切。では、「なぜ大切?」。なぜの部分先生のご体験も紹介して頂きながら、時間をかけて伝えて頂きました。遊びの経験が小学校、中学校の学習を支える。遊びが人の土台をつくる。子ども達が真剣に遊ぶ姿は、成長発達のエネルギーが内在する証である。それは、花を咲かせる力のあるひまわりの種のようにだと話されました。本当にそうだなと思いました。この時期に関わる私たちは、遊びの環境をどう保障するか責任重大であることの再確認し、その子の 100 年後まで影響し、100 年後まで責任があると言われた言葉が強く心に残りました。無理やり食べさせることが将来をもぎ取ってしまっている。本当に今が大切であると実感しました。

そして、依存があるから自立ができる。意欲、気づき、発見これらの力を身につけるには、いざとなったら頼れる人がいる。安全基地、大人の存在が大切であることを学びました。

子どもは人や物に関わりながら学ぶ。そこには安心できる居場所があること。子どもは地を這うように遊ぶ事ができ色々な体験が保障されて、非認知能力が高まる。明日からの進む道を方向づけて頂きました。



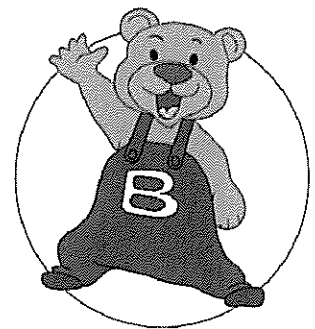
講演会を聞かせて頂き、子どもの遊びについて考えることがたくさんあり  
ました。

乳幼児の時期の遊びの経験が重なり成長していくので、保育者が  
遊びも工夫したり、広げていくことがとても大切ななと改めて思いました。

子どもたちの興味や関心のあることを見つけ、保育者も遊びの中に入り  
一緒に楽しむことで、人間関係を作っていたり、いろいろな感情を経験  
したりしていきける環境を整えていかなければいけないなと感じ、これから  
遊びも提供する時などは、頭において保育をしていこうと思いました。

子どものいたずらは、探索活動をしているという言葉も聞き、いたずらをしていたら  
注意をすぐにしてしまうところもあたが、探索をしているのだと思うと、危険の  
ないように見守りながら、その子のしたい探索活動を楽しめるよう見守っていこう  
と感じました。

子どもたちにとって遊びが大切なと改めて感じる事ができたのと、保育士とは  
子どもたちの人生の成長の中で責任があるのだと改めて強く思いました。  
ありがとうございました。



## 子育てひろば21講演会

「子どもの発達と環境」～乳幼児の遊びの大切さ～

塩野谷先生のお話を聞いて、一番心に残った言葉は  
“非認知能力”という言葉だった。それには、乳幼児の経験の  
積み重ねが、いかに大切なことかということが改めてわかった。  
理事長先生からも大人の手助けするのではなく、できる子を見て、  
大人がするのを見る中で、自分で考え習得していかなければ  
ならない。まさにそれが非認知能力の獲得だと思った。  
幼い時からそれを身につけられるよう周りの大人、保育士は、  
遊びの環境を保障していかなければと思う。



石井先生に参加させていただき、講演の間何度も子ども達が遊んでいる時のことを思い出され、笑みと涙を浮かべている姿に、塩野谷先生は、本当に子どもが大好きで、子どものことをよく見ておられるのだと、感じました。

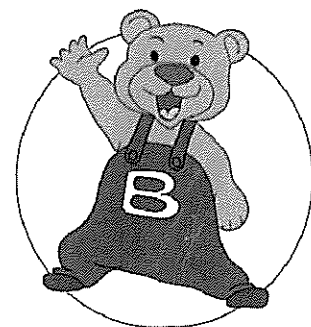
子どもにとっての「遊び」には意味があり、価値があることや、子どもが「言葉を学ぶ」ということは、「遊び」を通して様々な経験を積み重ねることができていることなど改めて実感しました。物に直接的に触れる直接的な経験の中で、人や物と濃密に関わりながら好奇心、気づき、発見、達成感などを学んでいるのだと思いました。

自主的、主体的な遊びの中でこそ、幼児期の非認知能力は養われているのであり、その能力を育てる環境を設けていくことも大切だと思いました。日頃の自分自身の保育と振り返りながら、戸外に出掛けて様々な物や人と直に触れて遊べるようにしてきたことは、感情体験につながっていたことだと実感でき、今後も続けていきたいと思いました。様々な可能性を持っている子どもに関わっていることを常に感じながら子どもと一緒に自分自身も「本気の」遊び、直接体験をしていく保育者でありたいと思います。





今回の講演を聞いて、改めて遊びについて考えることが  
できました。子どもたちは遊びを通して人間関係を調節  
する能力を身に付けたり、様々な経験をしていくことを改めて  
感じました。好奇心や満足感、達成感など一生涯大事な  
ものを直接的な経験や遊びの中で、人や物と濃密に関わり  
得ていく、地を這うようにしていろいろな感情経験をしていくこと  
が大事とお聞きし、保育者も様々な経験ができるあそびについて  
考えていかなければならないと思いました。幼児期の非認知能力  
が重要であり、自主的、主体的なあそびの中で養われる意欲、協調性、  
粘り強さなどは将来につながる持続性のあるものであり、とても大切  
なのだと感じました。積み木の家のお話の中で「遊んで大人から見ても  
素敵じゃないですか」とおっしゃっていたことがとても印象的で、普段の子ども  
たちのあそぶ様子を思い出し、ああそうだなと思いました。熊本の地震ごっこ  
の話は当時聞いたことがあり、子どもたちのあそびには様々な役割があるのだ  
と改めて感じました。がらがらどんの話もとても興味深く、そういう見方も  
あるのだと新たな発見でした。今の充実が次のステージを用意する  
とおっしゃられており、子どもたちが様々な  
ものに触れ、様々な経験ができるあそびを  
考えていきたいと思えます。講演会の参加させて  
いただき、ありがとうございました。



## 講演会感想文

講演を聴いて、子どもたちにとって遊びとは真剣なもので  
だということを知りました。

毎日の保育の中で、玩具の取り合いをする子どもの姿がどの  
場面でも見られるが、取られそうになっている玩具に必死に  
しがみついたり、取られまいとする子どもの気持ちには、その玩具が  
大事で、真剣に、切実に遊んでいるからだ」と、先生が「おっしゃり、  
深く納得しました。玩具の取り合いで、保育者が「何い  
玩具を出して渡しても、その玩具にこだわる子どもの気持ちも」  
わかるような気がしました。

また、遊びを通して、さまざまな感性体験を子ども達に  
していることがわかりました。遊びの中で、物や人と触れ、  
色々な思いや、経験を（して育っていくんだなあ」と、  
改めて感じました。

子ども達が豊かに遊びを表現できるように、満足感や  
達成感の味わえる為に、上げいな手を出さず、さりげなく  
支えることができる保育ができるようにしたいと思いました。



## 子育てひろば21講演会

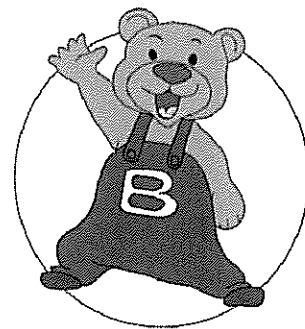
「子どもの発達と環境」～乳幼児の遊びの大切さ～について。

私がか「まだ保育者としてはほぼ未経験なので、この講演ではどうしても保護者目線になってしまいましたが、子どもの遊びの真剣さなど共感する所が多く、とても興味深く拝聴しました。

非認知能力の重要性においては、それが「自主的・主体的な遊び」の中で養われる事について、家庭とは違った環境の中で、空間や物の構成の仕方、子供への遊びの促し方など、保育者として具体的にどうやって子どもとかがわっていくのか、自分の中で多く課題がある事に気づきました。

また、子供の自主的・主体的な行動の中にも、絵本選ぶなど、大人が責任を持ってやらなければならぬ面がある事、

幼児期に培った非認知能力は一生涯に渡る大切なものであることなど、それを担う大人の責任について深く考えさせられる講演となりました。



この講演会を聞いて、子どもの遊びは、すごく大切だと言  
うことを改めて感じました。遊びの中で子どもは、  
いろいろな工夫をしたり、発見や気づきなどを得て、  
社会性も発達していくことを学びました。そのような発達  
などを促してくれるのは遊びなので、日頃の保育の内容  
も考えながらしていかなければならないと思いました。  
また、言葉も乳幼児のときから遊びを通していろいろな  
感情表現を経験していくことで出てくることもわかり  
ました。大人が言葉で言葉を教えるても限界もある  
ため、遊びが土台となって言葉を覚えていくんだと  
思いました。遊びでいろいろなものにたくさん触  
れていくようなことが大事だと感じました。

たくさんものものに触れていくような遊びをすることで  
いろいろなことを発見・気づき、触れたときの感触など  
を感じていき、そこから子どもは学んでいくんだと  
思いました。保育の遊びでも、いろいろなものに触れたり、感  
じたりできるような遊びを考え、環境を作って下さ  
いと感じました。講演会では、  
聞いていて、普段の保育を思いうかべな  
がら聞くことができ、すごく勉強に  
なりました。



## 講演会 感想

今回の講演で、子どもにとって、あそびは莫大なもので、あそびの大切さを改めて実感しました。子どものあそびには、あそびの中で学び、癒しの効果もあるという事を学びました。日々の保育の中で子ども達のあそびの様子をしっかりと観察し、子ども達の中に育ちつつある事は何かを考えた上で、あそびを提供したり、環境を工夫したりしていると思います。また、フミ木だけでもたくさん種類があることを知りました。正確に作られたフミ木だからこそできる事もあり、フミ木あそびから、満足感、充実感、達成感を得られるという事も学びました。

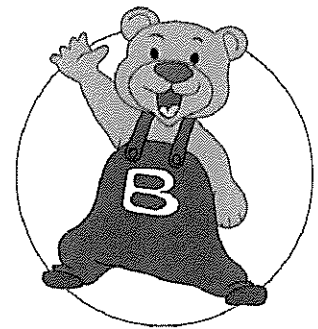
保育士は、園に子ども達が通っているその時期だけの仕事ではなく、子ども達の将来まで影響のある、とても大切な仕事だということを志す。子ども達一人ひとりとしっかりと向きあって責任をもって保育していきます。



子どものがんばりを褒げとめ、安心できるような  
環境づくりをしていくことが大事だと改めて再確認  
することができた。

子どもの「あそび」は重要だとされているが、それには  
大人が「仕かけて」いたり、様々な系馬食を「あそび」を  
通してさせていく必要があるのだなと感じた。

今回の講演会を通して、必要以上に大人は手を出さず、子ども自身が興味、関心を持って「あそび」  
を展開させていくことにより、様々な能力を  
身につけていくことが分かった。



## 子育てひろば21 講演会 感想

今回の講演会で 子どもにとってのあそびの大切さを改めて感じました。

あそびが子どもを育てる。あそびの中での経験で人間関係を学んでいく。

子どもの時にいろいろな経験、感情体験をしておくといい。子どもたちがあそんでいく中での大切さを学ぶことができています。

子どもがしっかりあそぶためには 私たち大人の配慮が重要で、安全な場所の確保、環境をいかに楽しんでもらおうと思う安心感を大切にしてあげればいけなくて改めて感じました。

私たちの仕事は、子どもの20年、30年後にも責任を持たないといけないというお話があったことが、とても印象的で、自分の責任の重さを感じました。先生の言われたように、子どもの遠い将来のため。

今、やるべきこと、毎日の保育、あそびを大切にしていきたいから、今後の自分の保育を日々、振り返っていかないと思いました。

忙しい中での講演会、ありがとうございました。



---

## 子育て広場 2 1 塩野谷先生の講演会に参加して

---

講演会に参加させて頂き、改めて保育者という仕事の大切さ、責任の重さを感じる事が出来ました。特に印象に残っていることは、「将来まで責任のある仕事」という言葉でした。

日々の保育の関わりがいかにかに大切か、それが子どもたちの将来にどのようにして影響があるのかを、月案・週日案を作成するときに深く考えられていませんでした。目指す子どもの姿や育てほしい力を考える時には、将来持っていてほしい力、身につけてほしい力をイメージしています。しかし、もっと身近な指導計画でねらいや姿を考えた時、それが将来どうなるのか、どこに繋がっているのか十分にイメージできていませんでした。

日々の保育での関わりが、その子の次の瞬間、次の日、翌年、将来とつながっていく事を改めて意識し、この活動はどういう思いがあるのか、子どもたちにどのように感じてほしいなど、様々な事に思いを巡らせ、保育を進めたいと思いました。

そして、自分との関わりを通して、またベアーズでの生活を通して、子どもたちが将来に夢や希望、憧れをもてるような気持ちの土台となれるように頑張りたいと思います。

その為にもしっかりと自分自身がこの仕事に憧れや夢をもって取り組み、保育者としての意図をもって日々の保育に繋げていきたいと思っています。

---

---

---

---

---

---

---

---

